

竹の台地域委員会 「高齢」にかかわる勉強会 めざせ！ Happy100年人生
第26回 「失敗しないお葬式 ～今どきの葬式事情～」 要旨

1 日 時：令和3年2月20日（土）13：30～15：00

2 場 所：たけのパーク フリースペース

3 参加者：17名

4 講 師：1級葬祭ディレクター 富川信義氏

5 主な内容

○ 客観的・第三者的な立場から、葬式や葬儀社の実情についてのお話を聞いた。

(1) 最近の葬儀の傾向

- ・「家族葬」が増えている。通夜を省略するケースも増えている。
 - ・紹介業者が増えている。→ ネット検索で多く出てくるが、実体は葬儀社まかせで、紹介料だけ取る仕組み
- 身内だけで、安く、早く済ませたい、面倒なことは避けたいという気持ちは分かるが、本来の葬式の意味を分かったうえで、世相に流されずに選択してほしい。

(2) 葬式の原点と役割

- ・臨終から死後の喪に至るまでの死別に出会った人が営む「悲しみ、葬り（ほうむり）、悼む（いたむ）一連の儀式」であり、「故人が、疎遠の親戚や集まってくれた人たちの絆を深めてもらえるような機会を作ってくれた」と捉えることができる。
 - ・死者の尊厳を守り、遺族の悲しみを大切にすること
 - ・昔は葬儀社でなく、近所の人が手伝って死者を送っていた。
- ・通夜：故人の供養のため、線香と蝋燭を絶やさないように、故人に近い者が交代しながら夜を徹し、故人を見守るとというのが本来の意味
- ・葬儀の役割：死亡届の提出（戸籍抹消）、遺体の処理（火葬、埋葬許可証が必要）、感情や悲嘆の処理（心理的役割）、霊の処理（宗教、宗旨・宗派）
- ・最近では、寺とのつきあいが減っている。本来のお布施は20万円くらいだが、当日だけ5～6万円に来てくれる「ビジネス僧」もいる（分かったうえで選択する）。

(3) 葬儀の種類

- ・一般葬（家族・親戚・町内会・友人・知人）／家族葬（家族・近しい親戚（身内のみ））／火葬のみ（直結）／その他・・・密葬とは必ず本葬を伴うもの
- ・仏式（宗旨・宗派・・・浄土宗・浄土真宗、西本願寺・東本願寺など）／神式（神道、天理教）／キリスト教／無宗教

(4) 葬儀社・費用について

- ・葬儀社の形態・・・昔からの専門の葬儀社、互助会（月々の掛け金）、生花・仏壇・宗教業者、紹介業者（紹介するだけ）
 - ・平均費用（2018年）・・・180万円ほど（30～50人規模の式の基本料金（122万円）、飲食・接待費（22万円）、お布施（35万円））・・・年々、低下傾向にある。
 - ・家族葬なら、70～80万円
 - ・業者に希望価格を伝え、内容を確認することが大切
- 例えば、正式な湯灌（ゆかん：葬儀に際し遺体を入浴させ、洗浄すること。本来は家族が行うもの）を専門業者に頼めば、10万円程度かかる。

(5) 事前の準備

- ・生前から、葬儀について決めておく
 - ・規模・人数
 - ・どこで（最近では遺体が病院から葬儀場に直接搬送される場合が多い）
 - ・いつ（友引を考慮するか）・・・寺の都合や火葬場の空き具合で決まる場合が多い
 - ・何式（宗旨・宗派など）
 - ・費用（無理なく支払える額）
- ・葬儀社の選び方・・・ハード面より、ソフト面を重視した方がよい。
 - ・事前に電話して対応態度を見る。
 - ・事前訪問し、事前見積もりを取る・・・複数の人が見る。複数社を訪ねる。
- ・死亡通知（訃報）・・・どこまで知らせるか
 - ・故人中心か、喪主中心かで異なる。
 - ・最近では、喪主中心になっている。
 - ・故人中心の場合は、親族・親戚、宗教者（寺）、友人・知人、地域、職場（定年退職している場合の連絡先）→ 喪主では分からないことが多いため、エンディングノートに遺すことが大切
 - ・訃報の内容：故人名、喪主名、通夜・葬儀の場所・日時、何式か、その他（家族だけ、香典辞退など）
 - ・香典をもらうことは悪いことではない（お礼は必要）・・・もともと、助け合いの意味

(6) いざという時に

- ・病院で死亡したとき（死亡診断書をもろう）：一度、遺体を自宅に戻すのか、葬儀場に直送するのか・・・葬儀社に病院の場所、引取り時間等を伝え、死亡診断書を渡す。
- ・家で急死したとき（病院につく前に死亡したとき）：警察が検視し、検案書が出る。司法解剖する場合があります、葬儀の日程がすぐに決められないときがある。
- ・老人ホームなどでの死亡：提携している医師が死亡診断書を出す。老人ホームなどによっては、すぐに遺体を引き取る必要がある。

6 主な質疑

- ・戒名は必ず必要なのか？
 - 俗名でも葬儀はできる。寺を必ず呼ばなければならないということもないが、それまでつきあいのある寺に頼んだ場合、拒否するのも難しい（最低20万円くらい別にかかる）。
- ・お棺に故人が好きだったものを入れたいが、制限はあるのか？
 - 火葬したときに「綺麗に焼けること」が重要。本などを燃やそうとすると温度を上げなければならぬので、「綺麗なお骨」が得られないため、一般的には花を入れる程度である。
- ・心臓にペースメーカーを入れたままだと火葬できないと聞いたが？
 - 爆発するおそれがあるので、普通は死後に病院で取り外してくれる。葬儀屋や火葬場では取り出せないが、事前に確認される。もし、入ったままなら、爆発しないように慎重に火葬する。

- ・施設入所者で、死亡時に相続人に連絡が取れないときはどうするのか？
 - 身寄りがない人などは、入所時にそのような場合の対処方法を決めていると思われる。
- ・互助会に入っているが、死亡時に遺体を自宅で一泊させることは可能か？
 - 今は、病院→葬儀場が普通だが、故人のためにもそうするのはよいこと。互助会に入っていたとしても、自分の気持ちを押し通すのがよい（価格も含め）。お通夜の日の夕方に自宅に迎えに来てもらうように手配する。寝台車の料金は距離で決まるので、その範囲なら追加料金はかからないと思われる。

(参考)

① コロナ禍における葬式事情

- ・遺体は病院で納体袋に密封（最近顔だけ見れる）され、直接火葬場に送られる。
- ・家族はお骨をもらうだけ
- ・搬送できる業者が少ないため、特別料金（25万円ほど）がかかる。
- ・火葬も一般の時間帯を避けて行われる。

② 参考図書

「ザ・お棺をかついた支配人」 富川氏著・・・お葬式の裏話と実話集

③ 参考ホームページ

- ・葬祭セミナー 失敗しないお葬式

<http://tomi-101.sakura.ne.jp/moyou.html>

以上